

1. 評価結果概要表

作成日 平成18年8月17日

【評価実施概要】

事業所番号	2370301570		
法人名	旭日産業株式会社		
事業所名	グループホーム あさひ名北		
所在地	名古屋市北区安井一丁目26-14 (電話) 052-910-5438		
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7A		
訪問調査日	平成19年7月13日	評価確定日	平成19年8月16日

【情報提供票より】(平成19年6月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 17年7月16日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	23 人	常勤 9人, 非常勤 14人, 常勤換算	7.05人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	2階建ての	1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,500 円	その他の経費(月額)	30,000 円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(300,000円) 無	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	450 円
	夕食	600 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		円	

(4) 利用者の概要(平成19年6月25日現在)

利用者人数	17名	男性	3名	女性	14名	
要介護1	5名	要介護2	4名			
要介護3	3名	要介護4	4名			
要介護5	1名	要支援2	0名			
年齢	平均	87.1歳	最低	72歳	最高	97歳
協力医療機関名	医療法人あちは 澤野医院					

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

重度の方でも対応できる設備と職員の創意工夫で、介護度が高くなっても安心して暮らしてもらえるよう取り組んでいる。入居者の持っている残存機能をどう活かしていくかを常に意識し、「入居者が自分でできること」については、職員は手をださず、見守り必要に応じて支援している。地域との関わりを開設当時から積極的に取り組み、日常の散歩では職員から地域の方に挨拶をしている。ホームの外に掲示板を作り、ホームのことを載せたり、地域の回覧物も載せている。地域行事への参加や、ホームの行事に地域の方も参加している。「家庭的な場所」を基本とし、入居者と職員、家族が共に協力し支え合う関係ができている。地域への理解も少しずつ浸透している。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	緊急時の対応については、消防署に救急救命講習を職員が受講した。居室での注意が必要な入居者の安全確保については、職員で何度も話し合い、頻回に確認することや、常に職員が意識し見守りをするようにしている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	外部評価の意義については、全体会議の時に話がされ、職員は一生懸命自己評価に取り組んだ。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議のメンバーは、入居者家族や自治会長、区政委員、ホームドクター、同法人の事業者、管理者で構成されている。開催するにあたり、メンバー、一人ひとりに管理者が何度も足を運び協力を得た。ホームドクターの後押しもあり、在宅医療や、グループホームについて少しずつ理解が深まってきている。会議では積極的に意見交換がされ、地域の方から頂いた意見は真摯に受け止め、運営に活かしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	外部評価で実施された家族アンケートの結果について、家族から出た意見や要望は真摯に受け止め、改善に向けて取り組んでいる。ホームの行事には、家族にも呼びかけ、一緒に楽しんでいる。ホーム内に意見箱が設置されているが、家族は直接職員に伝えている。アンケートからも「話しをよく聞いてくれる」「柔軟な対応」について評価されている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入しており、地域の掃除(クリーン作戦)に入居者と一緒に参加している。ホームの行事に地域の方を招待し交流を図り、新年会には多くの方が参加した。近所の子供も遊びに来てくれたり、近くの学童保育と交流ができるよう呼びかけている。日常の散歩では、積極的にホームから地域の方に声をかけ挨拶している。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営やケアの方針をまとめた文書である「私たちのあさひ名北とは」「私たちのグループホームあさひ名北では」を理念としている。開所当初から、地域との関わりに積極的に取り組み、少しずつ地域の方に受け入れられてきている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	各ユニットの廊下に理念が掲示されている。1階は、職員トイレにも掲示されている。月1回会議の中で、理念について話しがされ、家族として入居者と職員が一緒に楽しく生活できることを常に意識をして取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、地域の掃除（クリーン作戦）に入居者と一緒に参加している。ホームの行事に地域の方を招待し交流を図り、新年会には多くの方が参加した。近所の子ども達が遊びにきてくれたり、近くの学童保育と交流ができるよう呼びかけている。日常の散歩では、積極的にホームから地域の方に声をかけ挨拶している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義については、全体会議の時に話がされ、職員は一生懸命自己評価に取り組んだ。前回の外部評価の結果を受け、入居者の残存機能を活かすためのケアをどうしていくか、また、居室内での入居者の安全管理について、職員一人ひとりが意識し、声かけや見守りをするよう会議で話し合い、取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議のメンバーは、入居者家族や自治会長、区政委員、ホームドクター、同法人の事業者、管理者で構成されている。開催するにあたり、メンバー、一人ひとりに管理者が何度も足を運び協力を得た。ホームドクターの後押しもあり、在宅医療や、グループホームについて少しずつ理解が深まってきている。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>終末期について、福祉課の担当者と頻繁に情報提供し、連携を図った。区役所の保護係とも情報交換を行っている。今後、書類の提出の際に、積極的にホームから情報を提供していきたいと考えている。</p>		
4. 理念を实践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>年4回、ホーム便りと行事についてのお知らせを家族に送付している。来訪時には、入居者の状況を伝えており、状態に変化があった場合は、すぐに連絡をしている。「施設介護経過」に細かく入居者の状態が記録されており、来訪時に見ている家族もいる。金銭管理については、月末に利用料の請求書と一緒に領収証を送付している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>外部評価で実施された家族アンケートの結果について、家族から出た意見や要望は真摯に受け止め、改善に向けて取り組んでいる。ホームの行事には、家族にも呼びかけ、一緒に楽しんでいる。ホーム内に意見箱が設置されているが、家族は直接職員に伝えている。アンケートからも「話しをよく聞いてくれる」「柔軟な対応」について評価されている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>各ユニットの職員は固定されているが、年2回、1・2階の職員が交代する。しかし、1回につき1人の交代となっており、日常的に各階の職員や入居者の交流があることから、異動しても入居者へのダメージは少ない。新人職員は、まず入居者の名前を覚え、入居者の特徴をリーダーから教えてもらい、早く馴染みの関係ができるよう努めている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じた育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>毎月、勉強会を実施している。外部研修には、パート、社員にかかわらず受講でき、職員は積極的に参加している。参加者は研修レポートを書き、会議の時に報告している。日常の中でも、管理者や各ユニットリーダーは、職員の状況に応じてアドバイスや指導をして、職員の育成に努めている。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>名古屋市グループホーム連絡協議会に参加しており、研修や意見交換をしている。管理者が積極的に他のグループホームとの交流に取り組んでおり、行事の時に招待したり、入居者と一緒に他のホームにあそびに行くこともある。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前に2泊3日の体験入居を利用することが可能である。体験利用も行っており、食事を一緒にとったり、ホームの見学をしたりして、馴染みの関係をつくり、本人、家族が安心して入居できるよう支援している。本人が来れない場合は、管理者が自宅や病院を訪問し、本人と面談を行っている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>互いに支え合うことを大切にしている。入居者と職員と一緒に掃除を行っており、入居者から料理の方法や味付け等を教えてもらっている。行事の時には、入居者や家族、職員が一緒にお酒を飲み、皆で楽しんでいる。入居者数名で散歩にでかけたこともあり、管理者がそっと見守り安全に配慮しながら支援している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>不穏の状態は入居者によって異なり、職員はスキンシップをとったり、1対1で話しをしたり、散歩に出かけたり等、対応方法を変え本人の思いを理解できるよう努めている。申し送りや週1回のカンファレンス、また、日常の会話の中から希望を汲み取り、実現できるよう検討しながら支援している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>カンファレンスで職員が意見を出し合い、計画作成担当者が介護計画を作成している。本人、家族の要望を取り入れ、好きなことやできることを継続してもらえよう介護計画に反映させている。日報には、分かりやすいよう個々の入居者の介護計画が印刷されており、職員が介護計画に沿ったケアを行えるよう工夫されている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>各ユニット毎に毎週、その日いる職員でカンファレンスを開催し、入居者の状態や要望等について意見交換がされている。身体状況については、3カ月毎にケアチェック表で見直しをしている。変化が生じた場合は、その都度、見直しを行い現状に即した介護計画を作成している。見直しの記録については、当日確認ができなかった。</p>	○	<p>見直しは入居者の状態によって、臨機応変に実施されているが、見直しの記録について、当日確認ができなかったことから、いつでも確認（閲覧）ができるよう保管されることに期待したい。</p>
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>医療連携体制加算を受けており、ホームドクターが1階、2階交代で隔週、往診を実施している。必要に応じてその都度対応可能である。入院した場合は、ホームドクターと連携し早期退院に向けて支援している。入居者がかかりつけ医へ受診する場合はホームで通院介助を行っている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>ホームのかかりつけ医以外に、入居者の馴染みのかかりつけ医に受診することが可能である。家族の希望で、受診に職員と一緒に付き添うこともある。通院や送迎の支援も行なっている。ホームドクターとの連携体制が確立しており、職員の中に看護師もいることから本人や家族の安心につながっている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>ホームの方針として、重度の方の受け入れも行っており、リフト浴など設備面が整っている。入居者全員に「重度化した場合における対応に係わる指針」の同意を受けており、過去に終末期の経験もある。職員には細かく説明し、ホームドクターや看護師と情報の共有を図り、全体で連携をとり支援している。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>挨拶を大切にし、職員は笑顔で挨拶するよう心がけている。入居者に声をかける時は、大きな声はださないよう注意している。排泄で失敗した場合には、入居者にさりげなく「ちょっと手伝って欲しい」と声をかけトイレに誘導している。個人情報の取り扱いについては、会議を通して職員に徹底している。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>基本的な1日の流れはあるが、起床や食事、入浴、就寝等の時間の制限はしていない。朝起きた人から順番に食事をとっている。夜には、コーヒーやお茶を飲みながら談話をしたり、テレビを見たりして、眠くなったら寝る等、入居者は自分のペースで過ごしている。</p>		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前には嚥下体操を行い、入居者と職員のコミュニケーションにもつながっている。食材の買出しは1日おき程度で、色々なスーパーに入居者と職員で行っている。朝食は、ご飯と味噌汁が基本でホームの味をだそうと取り組んでいる。お米は島根県の「仁多米」を使用している。調理や盛り付け、片付けは入居者と職員と一緒にしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	リフト浴があり、重度の方でも対応できる。入浴を楽しんでもらえるよう、沐浴剤を毎日種類を変えて提供している。菖蒲湯やゆず湯等、季節感も大切にしている。また、一人ひとりお湯を変えている。入浴は概ね1日おきで、午後に入浴している。希望があれば毎日の入浴や夜間の入浴にも対応可能である。拒否をされる方には、職員が声かけをしたりして対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	できることはできる限り本人にやってもらっている。好きなこと、得意なことを活かし、貼り絵やぬり絵、編み物、掃除、家事、畑仕事等、趣味やその人に合った役割を持ち、生活に活かしてもらうよう努めている。年2回、日帰り1泊旅行があり、入居者は楽しみにしている。行事が多様であり、入居者と職員と一緒に準備をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	水曜日は外出の日と決め、喫茶店や外食、買い物等に出かけている。毎日散歩にでかけており、コースも多様である。雨が降っていても入居者から希望ができれば、傘をさしてかけている。家族と話し合い、自宅へ外泊される方もいる。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者が不穩の時以外は玄関の鍵をかけず、一人ひとりの癖や傾向を職員は把握し対応するよう努めている。帰宅願望の強い方には、散歩と一緒にでかけたりしている。エスケープされた時には、近所の方が教えてくれたり、ホームまで連れてきてくれたこともある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>防災訓練を消防署の協力を得て実施したが、入居者は含まれていない。今後、入居者も交えて防災訓練を実施していく予定である。地域住民への協力の働きかけについては、運営推進会議を通し現在進めている。ホームドクターが説明してくれる等の協力があり、地域の方の理解の浸透につながっている。災害時に備え、水や食料は備蓄されている。</p>	○	<p>入居者も交えての防災訓練を今後予定していることから、地域の方も交えた取り組みが実現されることを期待したい。</p>
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>栄養摂取量は1日1600Kcal、水分は食事の汁物を除き、1000ccを目安としている。入居者の状態に応じて、スキนมilクを飲み物や、料理に使用することもある。献立は管理者が最終確認をし、野菜類を増やす等、栄養バランスに配慮している。年2回健康診断を行っており、ホームドクターと相談しアドバイスももらっている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関のフラワーポットには、季節の花が植えられている。ホームの壁には臭いがつかないクロスを使用している。共用空間はこまめに掃除され、異臭はない。食事の時間には、音楽を流し食事に集中できるよう配慮している。1階の廊下には、日付やその日起こった歴史的出来事が掲示され、2階には魚の名前が漢字で掲示されていた。その他にも行事の写真や旅行の写真が掲示されている。庭には、菜園をつくり、ミニトマトやキュウリ、シソの収穫を楽しみにしている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には、入居者の馴染みのタンスやテレビ、時計、写真、仏壇などが持ち込まれている。また、趣味の品や作品などが飾られ、居心地よく過ごせる居室になっている。</p>		

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。